

# インフル予防

# 食品で実用化を

機能性食品素材開発の

ファーマフーズ(京都市西京区)や京都府立医科大学などが、インフルエンザウイルスの感染を抑制する鶏卵抗体の開発を進めている。鶏卵抗体が新型インフルエンザウイルスの増殖を短時間で抑える効果をこのほど確認し、早期の実用化を目指している。

とるな大立医府  
め進発開

ファーマフーズ

に移行する働きを利用し産まれた卵からインフルに作る。すでにピロリ菌 鶏卵抗体「IgY」を作製。抗体と新型インフルに對する抗体などが開発され、実用化されている。エンザウイルスを、犬の

れるカテキンがあるが、効果が表れるまでに約30分かかるといい、同社は「IgYは極めて短時間で効果的にウイルス感染を抑制することが確認できた」とする。抗体が口の中で唾液に触れても、抗ウイルス効果が5時間以上持続することも確認した。

## 来年中の販売目指す

今回の開発は、ファーマフーズや京都府立医科大学、大阪大などが研究チームをつくり、約2年前から進めている。鶏に新型や季節性のインフルエンザウイルスを注射し、腎臓細胞に注入する実験を行い、抗体が30秒以内でウイルスを中和し、感染を抑制するとの結果を得た。抗体をトローチやあめ、ガムなどに混ぜて摂取してもらった食品素材として販売する計画で、「来年中の販売開始を目指す」としている。

(大西保彦)